

団扇流 アドバイス

- 作ったものの中から1句選び、じっくり推敲する
- 思いが募り過ぎるとひとりよがりの句になり、伝わらないので、他人に読んでもらう
- ひねりは大切だが、ひねり過ぎると難解になるので注意
- 必死になったり、しかめ面になったりせず、楽しんで作る

Kacce川柳 大募集!

- ①テーマ「マスク」 ②テーマは自由

応募いただいた作品の中から、添削付きで Kacce に掲載する場合があります。

巻末ハガキまたは右記フォームの「自由投稿欄」に【川柳】(①または②)と記載の上、句をご応募ください。(複数句 OK)



9月20日締切

て思い付いたことを携帯にメモしておくんです」
また、川柳はただ面白いだけと思われがちですが、それだけではいけないこと。
「クスッと笑える **ごっつけい** 味」や、思いも寄らない切り口で読み手をハッとさせるような **ごうがち** など、いろいろな要素を含んでいます。例えば重たい

場面でも、その心情を軽快なりズムに乗せてユーモラスに描き出すこともできるんですよ」
ポイントは **目の付けどころ!**
川柳を詠む際、テーマが決まっている「**題詠**」と、自由に好きな題材で詠む「**自由吟**」の2種類があります。選者として

気軽に楽しむ 5・7・5

川柳の世界へようこそ!

サラリーマン川柳など、近年ブームになっている「川柳」。始めるなら、家で過ごす時間が長い「今でしょ!」ということで、板橋在住の川柳家、植竹団扇さんにお話を伺いました。

川柳の基本



- 「五・七・五」の17音が定型
- 季語は不要
- 話し言葉(口語体)を使う
- 誹謗中傷や人を陥れるような内容は NG

好きな子をつい追いかける鬼ごっこ

送り火を忘れ母さん帰れない

※句は全て団扇さん作



植竹 団扇 (だんせん) さん
句会の講師や選者など、板橋を中心に都内各所で幅広く活躍。会長を務める「川柳成増吟社」では、毎月第2・4木曜に、まなぼーと成増で句会を開催。見学自由。

☎090-3688-6134(植竹)
メール dansen-ryohei@ezweb.ne.jp

間口も奥行も広い!

川柳といえば、俳句と同じ「五七五」のリズムですが、どう違うのでしょうか。

「昔からある五七五七七の和歌から五七五だけが江戸時代に独立し、より庶民に親しまれる文芸へと変化したものが川柳です。創始者の柄井川柳(からいせんりゅう)の名に由来していますが、個人名が文芸になったのは、世界でも他に例がないと思います。俳句との大きな違いは **季語がないこと**。難しいルールもなく、普段の話し言葉でよいので、ハードルが低く、気軽に誰でも始められるのが特

あり、シニアは豊富な人生経験がそのまま川柳になる。詠む人それぞれの内面や生き様が反映される川柳は、間口だけでなく奥行も広いです」

「人間」を詠む面白さ

主に「情景」を詠む俳句に対し、世相や生活を通して、人間に焦点を当てているのが川柳。団扇さんの場合、インスピレーションが湧くのは、行きつけの居酒屋にいる時と夜寝る前だそう。

「居酒屋の片隅にある指定席」で人間観察。いくつでも句が浮かんできますよ(笑)。夜は寢床の中で、1日を振り返っ

多くの句を見てきた団扇さんによれば、

「題詠の場合、みんな似たような句になりがちなので、どんな見方をして、どう表現するかがポイント。どこかで聞いたことがあるような上手い句より、『目の付けどころがいいな〜』と思わせる句の方がいいですね」とのこと。

自由吟の場合は、日常生活で見たこと・聞いたこと・体験したこと、表現したい言葉を思い浮かべていくとよいそうです。

「川柳は芸術や音楽と同様、自己表現の手段の一つ。新たにチャレンジすることで自己表現

微です」
実際に、小学生から90代までさまざまな年代の句を見てきたという団扇さん。
「子どもには子どもなりの人生の機微が

の幅が広がり、人生の幅が広がると思えます。日本語の面白さを体感できる言葉遊びですから、堅苦しく考えず、ぜひ楽しんでみてください」

一句いかがですか?

ここまで読んだあなた、ぜひ一句詠んでみませんか? 団扇さんから教えてもらった左記のアドバイスも参考にしながら、初めての方もベテランの方もレッツチャレンジ! もしかすると団扇さんに講評してもらえるかも!?

皆さんの作品、お待ちしております! ます!

イケメンの武将の顎が頼りない



胸の差で決めて良いのか徒競走